

岡本台病院

病院の概要

地域精神医療の基幹病院として、精神科一般診療やアルコール・薬物依存症の診療、デイ・ケアの実施をはじめ、自傷他害のおそれがある患者や休日・夜間時の精神科救急患者等の積極的な受入れに努めるとともに、精神障害者の早期の社会復帰を促進しています。また、心神喪失者等医療観察法(※)に基づく「指定入院医療機関」、「鑑定入院医療機関」及び「指定通院医療機関」として対象患者を受け入れています。

※心神喪失者等医療観察法：正式名称は「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」といい、心神喪失又は心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った方を対象として、社会復帰を継続的に支援・促進することを目的としています。

平成27年度の主な取組

- ◇ 「栃木県立岡本台病院経営改革プラン[第2次]」に基づき、患者さん一人一人に高度・専門的な精神医療を提供するとともに更なる経営改善に取り組みました。また、精神科救急医療・緊急医療など政策医療の推進を図りました。
- ◇ 心神喪失者等医療観察法に基づく「指定入院医療機関」となる病棟(第7病棟)については、手厚い専門医療の提供によって7名が処遇終了となりました。
- ◇ 一般病棟の保護室(10室)改修工事を実施し、転倒時の事故防止を図り、入院患者の安全性を向上させました。
- ◇ 病院運営協議会を開催(平成27年11月)し、外部委員から意見をいただきました。今後、病院運営に生かしていきます。
- ◇ 精神障害者地域移行・定着支援については、平成24年度から個別給付化され、市町の事業に移行されましたが、当院では長期入院患者に対して引き続き継続的な支援を行っています。また、訪問看護を実施し、患者さんが地域で安心して生活できるよう支援しました。
- ◇ アルコール依存症の患者さんや家族などを対象として、家族会、断酒会、アルコール関連問題研究会等の運営支援を行いました。また、栃木DARCミーティングを院内で実施しました。
- ◇ 開かれた病院、地域に根ざした病院づくりを目指し、岡本台病院ふれあいまつりを開催し、患者さんや関係団体等による作品展示や模擬店の出展のほか、医療相談やアルコール相談を行いました。
- ◇ 患者さんの希望を尊重した上で、薬の院外処方を推進しています。



第7病棟



平成27年10月に開催したふれあいまつり



がんセンター

病院の概要

県内唯一のがん専門病院として、さまざまな領域のがん専門医と多職種のスタッフが連携して高度なチーム医療を提供しています。また、都道府県がん診療連携拠点病院(※)として県のがん医療のレベルアップに中心的な役割を担って活動しています。

※ 「がん診療連携拠点病院」とは、全国どこでも質の高いがん医療を患者に提供することを目的として、原則として2次医療圏に1カ所、厚生労働大臣から指定を受けた病院です。そのうち、「都道府県がん診療連携拠点病院」は、県内のがん医療の先導的役割を担うとともに、県内のがん診療連携拠点病院間の連携における中心的役割を担う病院が指定されます。

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan_byoin.html (厚生労働省ホームページ) (外部サイトへリンク)

平成27年度の主な取組

◇ 都道府県がん診療連携拠点病院としての取組

- がん医療の均てん化を推進するために栃木県がん診療連携協議会を開催しました。
- 5大がん(肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん)の地域連携クリティカルパス(※)を推進しています。
※ 治療医とかかりつけ医が連携して診療にあたるためのツールで、患者さん自身が治療計画を把握するためにも役立ちます。
- 医療従事者の緩和ケアに関する知識と技術の向上を図るために緩和ケア研修会を開催しました。
- 放射線治療に従事している診療放射線技師に対して品質管理の知識と技術の向上を図るため、実際の放射線治療装置を使用した研修会を開催しました。
- 本県に特化したがん情報を県民のみなさまに提供するためのWebサイト「がん情報とちぎ」を管理運用しています。
- がん対策の立案と評価に不可欠な地域がん登録を実施しています。本県の登録精度は高い評価を受けていますが、更なる向上に努めています。

◇ 地域医療機関との連携強化に関する取組

- 顔の見える関係づくりとして医療連携のための研修会・情報交換会を開催しました。
- 医療連携ネットワークシステム「とちまるネット」の推進として、登録患者数を増やすことで医療機関とのさらなる連携強化を図るため、平成27年度から初診患者への同意取得・登録を開始しました。
- 地域医療機関との緊密な連携のもとに診療の効率を高め、患者さんの便宜を図るため、平成27年度から医療連携課看護師による医療機関からの紹介予約受付を開始しました。
- 平成27年7月には受託検査項目を見直し「単純・造影CT」「単純・造影MRI」「骨密度測定(骨塩定量測定)」「腹部超音波検査」「甲状腺超音波検査」「甲状腺ホルモン検査(FT3・FT4・TSH)」が可能となりました。依頼時のタイムリーな対応と受入体制の強化を図るため、医療連携課で予約受付を開始しました。
- がんセンターでの診療・治療内容を知っていただくために、郡市医師会等を訪問し医師向けの出張講座、がん教育を目的に地区公民館、中学校等に訪問し出前講座を開催しました。最新のがん医療についても情報提供し、がん医療における積極的な支援、広報活動を行いました。



<医師会出張講座:胸部単純写真の落とし穴(呼吸器内科)>

◇ がん専門病院としての取組

- 放射線治療科では、体幹部定位放射線治療（SBRT）を可能とするリニアック装置を導入しました。この装置は疾患部位に対し、人の動き（呼吸移動）に合わせた限局的な放射線照射が可能となり、患者さんの身体への負担を軽減できます。



<最新の放射線治療装置(リニアック)>

- 患者サロンでは、がん患者と家族が持つ様々な悩みや不安に対して、がんやその療養に関する様々な知識や情報を提供する「ミニレクチャーと語り合い」や、よりよい生活を過ごすことができるよう支援するための「ウィッグ・補整下着等の展示・相談会」、「アピアランスケア研修会」など患者・家族の要望を取り入れた企画を実施しました。また、患者会だけでなく、患者・家族が情報交換をしたり、交流できる場にもなっています。



<患者サロンでの活動>

- 緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟を有機的に統合する緩和ケアセンターの整備により、各セクションの連携が図られ、診断時から適切な緩和ケアを提供できる体制を整えています。また、「宇都宮医療圏緩和ケア地域連携カンファレンス」を済生会宇都宮病院と共同して実施し、宇都宮医療圏における緩和ケア提供体制の構築にも取り組んでいきます。

◇ 地方独立行政法人化への取組

- 病院経営改革プランのあり方検討の中で県立病院の経営方法について検討してきました。その中で自律性・機動性・透明性が高いことで、柔軟で弾力的な病院経営が可能になる地方独立行政法人が最適との評価を得ました。これまで県民に求められる高度で専門的ながん医療を提供するとともに、がん医療水準の向上・均てん化等県内のがん医療に対して重要な役割を果たしてきましたが、近年の医療環境の変化に迅速に対応するとともに、さらなる経営の健全化を図るため地方独立行政法人化への取組を進めてきました。



<法人評価委員会>

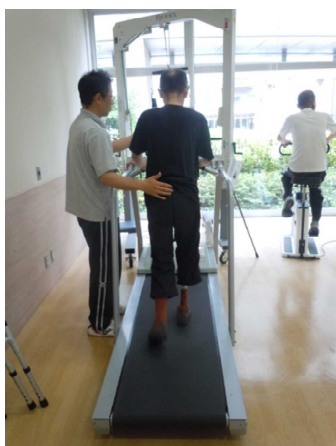
とちぎリハビリテーションセンター

病院の概要

主に運動器系や神経系に障害のある乳幼児から高齢者までの幅広い年齢層の患者に対して、専門的かつ高度なリハビリテーション医療を提供するとともに、障害児(者)に対する整形外科医療や小児神経疾患全般に係る医療を提供しており、とちぎリハビリテーションセンター(※)の中核的な施設となっています。

※ 乳幼児から高齢者に至る幅広い年齢層に対応し、障害を持つ方の自立と社会参加を促進することを目的として、病院、児童福祉施設、指定障害者支援施設及び相談・判定機関等で構成する複合施設です。

平成27年度の主な取組



義足をつけての歩行訓練

- ◇ 「とちぎリハビリテーションセンター病院部門改革プラン[第2次]」に基づき、更なる経営改善の推進、地域連携ネットワークの充実・強化、経営形態のあり方検討等の取組を進めました。
- ◇ リハビリテーションの充実を図るため人員の確保や設備の整備を行い、回復期病棟では、土日・祝日を含めた入院患者の365日リハビリテーションを実施しています。



とちりハ病院研修会
「ずっと楽しく食べるために
～リハビリテーションを中心に～」

- ◇ 病院スタッフが持っている医療情報などを、障害のある方々を支援する地域の皆様に還元し、障害のある方々の生活の質の向上や社会参加の促進に役立てていただくため、介護や障害者支援施設関係者・行政職員等を対象に「とちりハ病院研修会」や「出前講座」を開催し、知識の普及と関係機関との連携強化を図っています。

出前講座テーマ：こんな移乗とあんな介助
明瞭な発話を保つために
上手に歩行の介助をしよう など

- ◇ 脳卒中に係る県内統一の地域連携クリティカルパスに基づき、回復期医療機関として、急性期医療機関やかかりつけ医等との医療連携を図りました。さらに大腿骨近位部骨折に係る地域連携クリティカルパスの運用に取り組み、より一層の地域医療連携を進めました。